

ログライン…思春期を荒れて過ごした明日実
が仕事で戻った故郷で楓と出会い、過ぎた時
間をやっと見詰め直せたお話。

タイトル…故郷ふるさとのみやげ

作…えん

登場人物

明日実 (25) 主人公。公務員

秋月楓 (8) 祖父と二人暮らしの少女

秋月宗助 (62) 楓の祖父。元教師

お巡りさん (45)

その他

近所の人

○秋月家・前の道

古い屋敷の秋月家、前の道。

お巡りさん(45)が秋月楓(8)に何やら尋ねている。

楓の胸には紐でつるした小さな鍵。

楓が突然前に手を出し大声で叫ぶ。

楓「呪われないか！」

○タイトル「故郷のみやげ」

○秋月家 庭 夕方

子猫を探している秋月楓。

楓「コタマー、コタマー」

植木の間からガサガサつと音がし、コタマを抱き、土や葉っぱだらけの性別不詳者(明日実(25))が出てくる。

楓「(驚いて)だれ？」

明日実「ん(コタマを差し出す)」

楓「(受け取って)男？ 女？」

明日実「見てわかんねえか？」

楓「(しげしげ見て) わかんない」

明日実は胸を突き出して、オッパイを指さす。

楓「！」

庭に面した廊下を祖父の秋月宗助(62)が歩いて来る。

宗助「どちらさまだ？」

明日実「ご無沙汰してます」

宗助「……、明日実か？」

明日実「はい、先生」

宗助「……卒業以来だな」

明日実「随分お世話になりました」

楓「だーれ？」

宗助「おじいちゃんの教え子じゃ」

楓「女？」

宗助「(笑って)多分な」

明日実「ひどいな、先生」

○同・和室 晩

明日実、宗助、楓の笑い声が聞こえる。
夕食の座卓を囲んでいる。

宗助「そーいやお前、制服着てないといつても男と間違えられてたな」

明日実「制服着てても、疑われたつうの」

楓「迷子のコタマ探してくれたんだよー」

宗助「そういうことは得意だったな。今なに
してる？」

明日実「え、ああ。公務員です」

宗助「お前がか。探し物係か？」

明日実「先生こそ、料理とかして……」

宗助「ああ、息子夫婦が亡くなっちまってな

……、仕方なく」

楓「ねー、アスミ、泊まってってー」

明日実「え」

宗助「そーいえば、どうして村に？」

明日実「あ、こつちに用事があつて。でも宿
とれなくて」

宗助「……、お前の家、もう無いんだったな」

明日実「はい……」

宗助「そういうことなら、泊まっていきなさい。
楓も喜ぶ」

楓「やったー！一緒に風呂入ろう。おっ

ぱい見せてー」

宗助「これ、」

明日実「いいっすよ。(楓に)一緒に寝よっか」

楓「うん」

笑顔でしめたと頷く明日実。

○同・庭に面した部屋(日替わり)

コタマと遊んでいる楓。

明日実が帰って来る。

楓「あー、おかえりー」

明日実「よっ」

楓「どこ行つてたのー」

明日実「おしごと」

楓「ふーん」

明日実「ところでコタマの母ちゃんは？」

楓「死んじゃった……。カラスにやられて。
カラス大っ嫌い！」

明日実「そうなんだ……。(庭を見回して)どこかに墓あるのか？」

楓「内緒」

明日実「内緒？」

楓「絶対、言わない」

明日実「どうして」

楓「(突然大声で) 呪われないか！」

明日実「……は？ (吹きだす)」

楓「笑うな！」

明日実「呪われてもいいけどさ」

楓「？ いいのか？」

明日実「どうして言わないの？ コタマがか

わいそうだろ」

楓「楓のママ、病気で死んじゃって……」

明日実「で？」

楓「パパひとりでお墓参り行って、帰りにト

ラックとぶつかって死んじゃった……」

明日実「……」

楓「だからタマのお墓の場所は誰にも教えな
い。誰もお墓に行っちゃいけないの！」

明日実「タマって言うんだ……。ミケだよな？」

○村の道 (日替わり)

一緒に歩いている明日実と楓。

楓「どこ行くの？」

明日実「アスミもな、中学まではこの村にい

たんだ……。 (懐かしそう)」

楓「へー」

明日実「いっぱいお墓作ったぞ」

楓「？」

明日実「金魚に……カエル、ウサギだろ、そ
れに飼ってた犬のゴロー」

楓「ほんとう？」

明日実「ああ、今日はお墓参りだ」

楓「……」

○神社

社の縁の下をのぞく明日実と楓。

明日実「ほら、ここが金魚とカエル」

アイスの棒に『あすみのおともだち』

と書いて地面に突き刺してある。
じつと見る楓。

4

○小学校

ウサギ小屋の横手奥にいる明日実と楓。
明日実「ここがウサギ」

『平成※※年。びよこたんのお墓』と
書かれた立て札がある。

楓「りっぱだね」

明日実「クラスで葬式したからな」

楓「ふーん」

○古い空家

前に『売却物件』と書かれた空家。

一瞬ためらってから入っていく明日実。

続く楓。

明日実「アスミの住んでたところ」

楓「へー（見回す）」

明日実「今は誰もいないよ。だから草ボーボ
ー。あ、あった」

草むらの中に『ゴローのお墓』と書か
れた立て札。

明日実「まだ、あったんだ……」

草を抜いて、手を合わせる明日実。

横で楓も手を合わせる。

明日実「（辺りを見回してから）帰ろっか」

○村の道

手をつないで歩いている明日実と楓。

明日実「どう？」

楓「？」

明日実「呪われちゃったかな？」

楓「……、わかんない」

楓は胸にぶら下げた鍵を握りしめる。

○同・和室 晩

座卓を囲んで、夕食をとる明日実、楓、

宗助。

芋のところがし、焼き魚、卵焼きに
味噌汁が並ぶ。

明日実「すごいっすねー」

宗助「60の手習いさ」

楓「はじめは黒焦げだったんだよー」

明日実「やっぱり」

宗助「こら、楓、そういうことは内緒にして
おくんだ」

楓「ナイショ、ナイショー」

明日実「もう聞いちゃったけどな」

宗助「今日はどこ行ってたんだ？」

楓「お墓参りー」

宗助「え？ 父さんと母さんのか」

明日実「なわけないでしょう。どこにあるん
すか、そのお墓」

宗助「そ、そうだったな。いや、楓がどうし
ても墓参り行かないもんで、困ってたから、
つい」

明日実「きつと、次は行きますよ」

宗助「え」

明日実「な、楓」

楓「知らなーい」

○寺の境内にある墓地（日替わり）

秋月家の墓に手を合わせる宗助、楓、

明日実。

宗助「助かったよ」

明日実「楓が自分で決めたんすから」

楓「ここにいるの？ パパとママ」

明日実「そうだよ。お骨になつてね」

楓「おほね？」

宗助「葬式の後、煙突のあるところに行ったじ
やろ？」

楓「……？」

明日実「お骨にしないとね、いつまでも成仏
できないんだよ」

楓「じょうぶっ？」

明日実「天国に行くってことだよ」

楓「ほんとう？」

宗助「そうじゃな。パパとママはもう天国ま
で行ったかの？」

明日実「先生の手料理見たから、きつと安心

して仲良く行ってますよ」

宗助「そうかの」

楓「……（胸の鍵を握る）」

その楓をチラッと見る明日実。

○秋月家・前の道 夕方

宗助が血相を変えて楓を探している。

宗助「楓ー、楓ー」

明日実が帰って来る。

明日実「先生、どうかしたんですか？」

宗助「楓がおらんのじゃ」

明日実「え！」

○裏山 夕方

走る楓の姿。

胸の紐が切れて落ちる鍵。

○村の道 夕方

近所の人に尋ねている明日実。

近所の人「楓ちゃん？ そういえば裏山の方

に行くの、見かけたね」

走り出す明日実。

明日実「しまった」

○裏山・道 晩

駆けずり回る明日実。

明日実「カエデー、（反応無し）くそっ！」

○裏山・木の下 晩

暗い中、一心に地面をほっている楓。

○裏山・道 木の下 晩

必死で走る明日実。

明日実「カエデー！ 返事しろー」

× × × ×

やがて、泥まみれの楓を見つける。

楓は宝物入れのオモチヤの箱のフタを

必死で開けようと頑張っている。

明日実「楓！」

楓「アスミー（ワッと泣き出す）」

明日実「バカ！ 心配したんだぞ」

楓「だって、だって……、タマが天国行けな
いからー」

明日実「ひとりで行くことないだろう」

楓「だって、アスミ居なかったもん」

明日実「……ごめん」

楓「でも、ダメなのー。鍵がないの」

明日実「え？」

楓「宝箱の鍵、なくしちゃったー（大泣き）」

明日実「バカだなあ……」

泥まみれでわんわん泣く楓。

明日実「アスミが鍵探して、煙突んところ行っ
て、お骨にしてくるから」

楓「ほんとう？」

明日実「本当。約束する。楓のパパとママに
誓って。だから、その宝箱ちょうだい」

しばらく考えてから、宝箱を差し出す

楓。大切そうに受け取る明日実。

明日実「帰ろう、おじいちゃん心配してるよ」

○裏山 道 晩

宝箱を手に、楓をおぶって歩く明日実
の姿。眠っている楓、微笑む明日実。

○秋月家・庭（数日後）

『タマのお墓』と書かれた立て札。

手を合わせている楓、明日実、宗助。

楓「これでタマ、天国行った？」

うなづく明日実。

宗助「ああ、お光さまになったよ」

楓「わーい、じゃ、遊んでくるー」

庭の木戸から出て行く楓。

宗助「無邪気なもんじゃ」

明日実「ですね」

宗助「それにしてもよく見つけたな、鍵」

明日実「オモチャの宝箱ですよ、どれでも同
じ鍵です」

宗助「そうじゃったか」

○警察署・刑事課（日替わり）

スーツを着た『お巡りさん』の課長と話している明日実。

お巡りさん「よく見つけたな」

明日実「課長がお巡りさんのフリして聞いても無理だって言ったじゃないっすか」

お巡りさん「さすが、狙った獲物は逃がさんな、明日実刑事」

明日実「ったく、ホシがマイクロSD、ミケネコの首につけたって白状した時はぶったまげましたよ」

お巡りさん「ま、回収できたからいいじゃないか、またお手柄だ」

明日実「でも今回は、いいこともありました。

ガキの楓に呪いを解いてもらった……」

お巡りさん「？」

明日実「何がむかついてたのか、親に反抗して家飛び出して、散々泣かせたあの家に、やっと、もう一回行けましたから」

黙って明日実の肩を叩く『お巡りさん』。